

1 当院における自己血製剤の使用状況につ
2 いて

3
4 木村沙紀 五十嵐謙吾 山本喜則 長谷健二、
5 高階成実 丸山千恵子 木村豊 中村文隆
6 (帝京大学ちば総合医療センター 検査部)

7
8 【目的】自己血輸血は同種血輸血の副作用を回避す
9 ることが出来る最も安全な輸血療法である。当院に
10 おいても待機手術患者においては積極的に推進して
11 いる。しかし当院における貯血式自己血輸血は輸血
12 部門による採血の中央化を行っておらず、採血・使
13 用基準に関しては診療科にまかせている現状がある。
14 今回、診療科ごとの自己血の使用状況を分析し、現
15 状と今後の課題について検討を行ったので報告する。

16 【方法】2009～2011年の自己血製剤の使用状況につ
17 いて解析を行った。

18 【結果】2009～2011年貯血式自己血採血を行った患
19 者数は382人であり、うち自己血のみ使用313人、
20 同種血併用25人、未使用44人であった。
21 当院における自己血製剤はRCCとFFPに分離して保
22 存するものが大半であり使用率はRCC81.2%、
23 FFP43.5%であった。診療科別解析を行ったところ、
24 採血数は産婦人科が全体の半数以上を占めていた。
25 使用状況解析では、RCCの未使用率が高い科は産婦
26 人科であった。また、FFPの未使用率が高い科は整
27 形外科であった。

28 【考察】同種血併用例が少なかったことから、採血
29 量に関してはほぼ適正であると考えられた。製剤別
30 の使用率を見るとFFPの使用率は50%以下であり廃
31 棄が多いことが示唆された。診療科別解析より、産
32 婦人科に関しては分娩に備えた貯血は出血量が予測
33 困難であり、使用率を下げる原因となっていた。

34 【まとめ】今回の解析により当院における自己血の
35 状況を把握することができ、使用状況は概ね良好で
36 あると思われた。今後、FFPを有効活用するために、
37 クリオプレシピテート作成のアナウンスに力を入れ
38 ていきたい。